

教育だより

発行: 芦別市教育委員会学務課

☎0124-27-7586

目次	1面	コミュニティ・スクールの活動状況、芦別ならではの小中一貫教育
	2面	「主体的・対話的で深い学び」の授業
	3面	仲間づくり子ども会議、ネット利用に関するアンケート調査結果
	4面	リレーでつなぐ学校紹介、炭鉄港を主題とした授業等の取組み

コミュニティ・スクールの活動状況

「地域とともにある学校づくり」を目指している本市のコミュニティ・スクール。新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、活動には様々な制約があった1年間ですが、地域の方の力を借りて、今、できる活動を工夫しながら行ってまいりました。例えば、芦小では交通安全教室や農業体験、上小では農業体験や枝打ち体験、芦中では交通安全教室や保健講座、啓中では保育体験や炭鉱遺産巡りなどの学習場面で、各学校とも地域の方の力や知恵を借りながら、ふるさと芦別を学ぶ活動を行ってきたところです。

本市では、中学校区ごとにコミュニティ・スクールの取組みを進めていますが、芦別中学校区では、「家庭学習強調週間」（ファミリー・スタディーウィーク）を設定し、今年度は2回実施されました。家庭学習習慣の定着とともに、携帯・スマホ・ゲームの利用制限を図ることをねらいに、中学校のテスト期間にあわせて、小・中学校だけではなく、幼稚園・保育所にも呼び掛けて行われ、合言葉は、「お兄ちゃん・お姉ちゃん、弟・妹と一緒に勉強しよう!」。2回目の取組みとなった昨年12月1日～7日の小・中学校の実施率は約85%で、1回目（70%）に比べると上がっており、徐々に成果が表れてきていることがうかがえます。

今後も新型コロナウイルス感染症の影響で、人と人との交流や接触を伴う活動の縮小を余儀なくされることが想定されます。基本的な感染症対策を徹底し、可能な活動を工夫しながら取組みを進めてまいりますので、引き続きコミュニティ・スクールの活動に対しまして、ご支援ご協力をよろしくお願いいたします。

芦別ならではの小中一貫教育を目指して

平成30年度に小中一貫教育協議会を立ち上げ、①「児童生徒の学力向上」②「中1ギャップの未然防止」③「教職員の資質能力の向上」を目的に、「ふるさと教育」を核とした芦別ならではの小中一貫教育を目指し、中学校区ごとに取組みを進めてきました。3年目となる今年度、感染症対策のため活動に制約がある中、義務教育9年間の学びの接続を踏まえ、『星の降る里・あしべつキャリアノート』の作成に向けた検討、『「総合的な学習の時間」の指導内容・体験活動』の交流を行いました。

令和3年度からは、平成30年3月に策定した「芦別市が目指す小中一貫教育」が本格的に始まります。各中学校区では、目指す子ども像の共有、義務教育9年間の系統性を踏まえた教育活動の推進、児童生徒・教職員間の交流・連携の促進などの実績を踏まえ、反省や改善を行いながら、①から③を目的として推進し、目指す子ども像である「郷土に愛着をもつ子ども」「進んで学習に取り組む子ども」「豊かな心をはぐくむ子ども」「たくましく健やかな体をはぐくむ子ども」の育成に向けて取り組んでまいります。

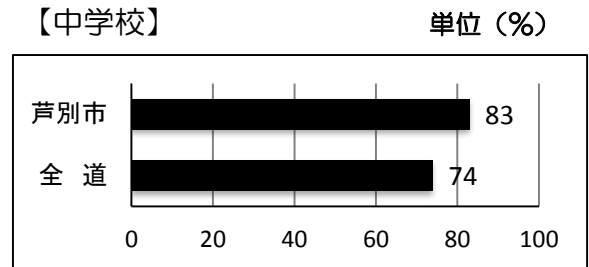
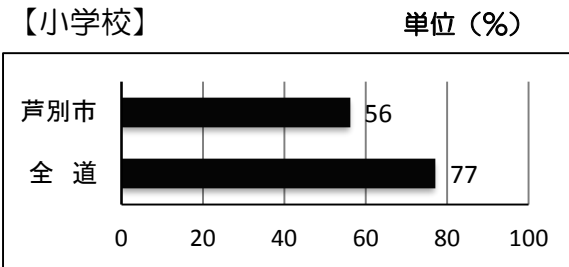
「主体的・対話的で深い学び」の授業について

平成29年3月に告示された新学習指導要領では、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を行うよう、普段の授業の中で、見通しを持って課題に取り組むことや、話し合いで自分の考えを広げ、深める活動が大切なことであると明示されました。

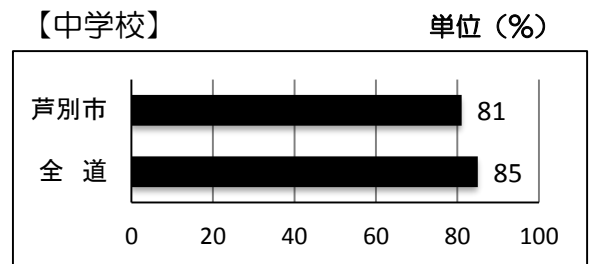
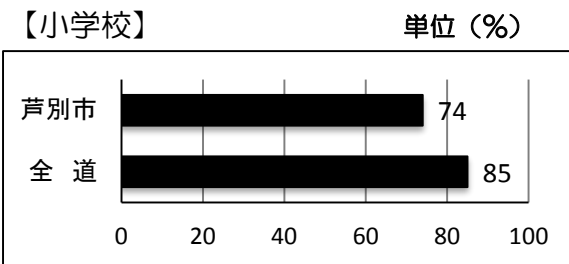
今年度は、全国学力・学習状況調査は実施されませんが、北海道教育委員会が、全国学力・学習状況調査の児童生徒質問紙を活用して実施した調査の結果から、このことがどこまで実践できているか、全道と本市を比較しました。

※令和2年度調査対象：小学校6年生、中学校3年生
※回答率は「思う」「どちらかといえばそう思う」を合計した率

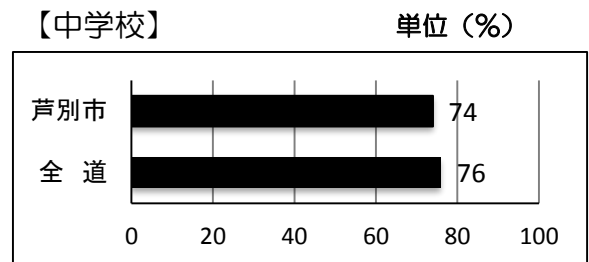
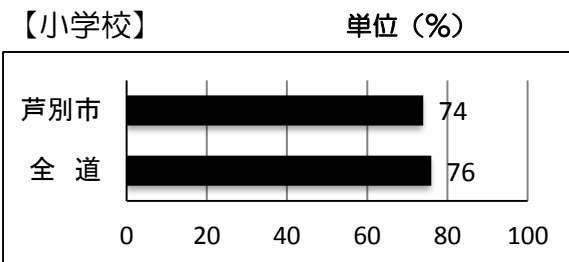
設問1. 昨年度までに受けた授業で、課題解決に向けて自分で考え、自分から取り組んでいたと思うか。



設問2. 昨年度に受けた授業で、児童生徒間で話し合いをよく行っていたと思うか。



設問3. 児童生徒間で話し合う活動を通じて、自分の考えを広めたい、深めたいと思うか。



◆◆ 調査結果から ◆◆

今年度の質問紙の結果を見ると、小学校では全体的に全道平均よりも低く、中学校では設問2・3が全道平均よりも低い結果となっています。

設問1については、小学校6年生と中学校3年生を比較すると、中学校の回答率が高くなっており、より自分で考え取り組む力が定着してきている様子がうかがえ、設問3については、昨年度と比べ小学校で24%、中学校で13%と増加しており、「主体的・対話的で深い学び」に向けた授業改善が進んでいるといえます。

児童生徒が自分の考えを広げ、深めるため、授業の最後に感想などを書いて自分の考えを整理・確認するなど、各学校では「振り返りシート」などを使い「振り返り活動」に力を入れて授業に取り組んでいます。

芦別市仲間づくり子ども会議を開催

令和2年12月17日（木）総合福祉センターにおいて、『いじめ』根絶のための取組みとして、令和2年度芦別市仲間づくり「子ども会議」を開催しました。

会議では、市内の小中学校と芦別高校・星槎国際高校の児童生徒が2名ずつ計12名参加し、2つのグループに分かれ、「いじめとはどういうものか」「いじめに気がいたら自分たちはどうするのか」をテーマに、活発な話し合いが行われました。自分たちが経験したことや、それぞれの考えや思いを話し合い、交流し、その内容を今後の児童会・生徒会の活動に生かすこととして、各学校に持ち帰りました。



各学校では、学校の行事や児童会・生徒会活動が制約される中、「いじめ根絶」に向けた取組みが積極的に進められています。「いじめ」をなくすために自分たちはどうしたらいいのか、家庭でも子どもたちと一緒に話し合ってみましょう。

※芦別市のホームページに、いじめやいじめ問題対策連絡協議会のページを掲載していますので、ご覧ください。（ホームページトップ下段「いじめ対策」のバナーから直接ご覧になることもできます。） 右のQRコードからもご覧になれます。→ (<https://www.city.ashibetsu.hokkaido.jp/docs/4803.html>)



ネット利用に関するアンケート調査結果について

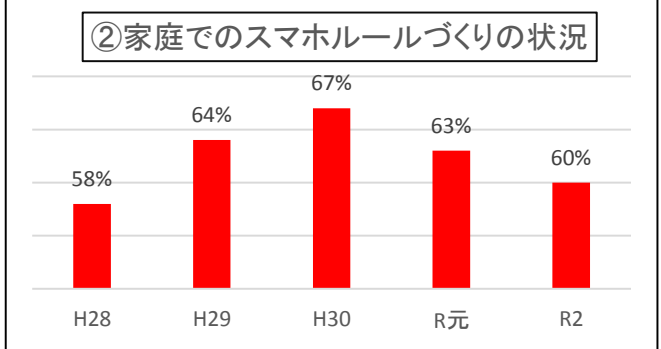
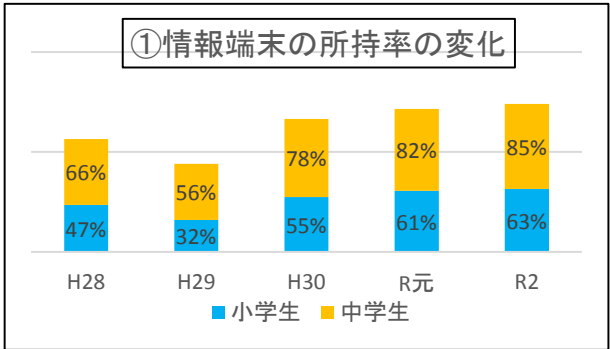
各家庭のネット環境が整ってきている中、子どもたちがネットやSNSを利用する機会が増えています。ネット等の利用が、個人情報流出やいじめにつながる可能性もあることから、教育委員会では各小中学校で生徒指導資料として活用できるよう、小学校5年生から中学校3年生を対象に「ネット利用に関するアンケート調査」を実施しています。ここでは、その調査結果の一部をご紹介します。

①情報端末の所持率の変化を見ると、令和2年度は、小学生63%、中学生85%と、増加傾向にあります。さらに、家族と共有すると答えた子どもを含めると、小学生87%、中学生95%となり、ほとんどの子どもたちがネット等を利用できる環境にあります。

②家庭でのスマホルールづくりの状況を見ると、平成30年度の67%をピークに、令和元年度63%、令和2年度60%と減少傾向にあります。

情報端末の所持率が増加し、ネット等を利用しやすい環境が整っている子どもたちが増える一方で、ルールづくりを行っている家庭は減少傾向にありますので、ネットトラブルを未然に防ぐためにも、家庭でのルールについて話し合ってみましょう。

※令和2年10月に「携帯電話・スマートフォン・ネット利用の基本ルール」を一部改訂しましたので、ルールづくりの参考にしてみてください 右のQRコードからもご覧 (<https://www.city.ashibetsu.hokkaido.jp/docs/4805.html>) になれます。→



～ リレーでつなぐ学校紹介 ～

リレー方式で市内の教育機関の取組みを掲載しています。



キーワードは「啓中プライド」！活発化する生徒会活動

啓成中学校は今年度コロナ禍の中、活発な生徒会活動を模索してきました。前期は、学校行事の実施も難しい中でしたので、生徒会活動も制限せざるを得ませんでした。後期新体制になって、活発化したより良い学校にするための取組みについて、その一部を紹介します。

- ①啓成中学校透明化計画・・・生徒会の活動・取組みを掲示し、「見える化」を図っています。
 - ②目安箱の設置・・・生徒や教職員から、学校改善のアイデアを募集しています。
 - ③校則の一部改正・・・Tシャツ等について見直しました。
 - ④朝の挨拶運動・・・生徒会役員が玄関で挨拶を呼び掛けています。
 - ⑤より良い学校生活のための学級活動＋全校協議会（写真）・・・熱心に話し合われた内容は、全校集会で報告されました。現在の課題は、「自主的な学習の不足」ということで、より良い改善策について検討を進めているところです。
- 熱意あられる教職員に支えられ、本校の生徒は日々頑張っています。



啓成中学校 校長 藤野 十志幸

「炭鉄港」を主題とした授業等の取組み

令和元年5月に「日本遺産」に認定された「炭鉄港」とは、近代北海道を築く基となった空知・室蘭・小樽を、石炭・鉄鋼・港湾・鉄道というテーマで結ぶことにより、日本の発展に大きく貢献した歴史を伝え、北海道の個性・特質を生かした新しい魅力の発信と、地域の発展の契機にするための取組みです。

かつて多くの炭鉱があり石炭産業で栄えた本市も、炭鉄港の構成市です。そんな「芦別市の歴史」や「炭鉄港」のことを、市内の小中学校ではふるさと学習（総合的な学習の時間）の一環として学んでいます。



炭鉄港とは？

芦別小学校 3年生が「変わる私たちの暮らし」をテーマに炭鉱や昭和に関する学習を行いました。

上芦別小学校 4年生が芦別の石炭産業について学び、5年生は星の降る里百年記念館を訪問し、芦別市の歴史について学びました。
6年生は修学旅行のテーマを炭鉄港に絡めて実施（苫小牧・室蘭・小樽を訪問）。港や鉄鋼・鉄道について学びました。

芦別中学校 1年生が総合的な学習の時間で8グループに分かれ課題を決め調査・発表を行い、炭鉱をテーマに芦別市の炭鉱の歴史や当時の石炭の産出量、輸送方法、使用用途等について学び、発表しました。

啓成中学校 1年生が「炭鉱」をキーワードとして地域に関する学習を行いました。市内の炭鉱遺跡、炭鉱殉職者慰霊碑、炭鉄港の構成文化財である星槿大学（旧頼城小学校）校舎の内部等を見学し、炭鉱とともに歩んできた芦別市の歴史を学びました。

保護者・地域の皆さまへ

教育だよりは、本市の学校教育の現状や課題、さまざまな施策や取組みなどを広く市民の皆さんに知っていただき、情報を共有するため年3回発行しています。

本市の学校教育の向上に関するご意見を「郵送」、「ファックス」、「電子メール」（様式自由）にてお寄せください。

【送付先】〒075-8711 芦別市北1条東1丁目3番地 芦別市教育委員会学務課学校教育係
【電話】0124-27-7586 【ファックス】0124-22-9696
【電子メール】gakumu@city.ashibetsu.hokkaido.jp